

岩倉具視公の生祠岩倉神社

文學博士 加藤 玄智

明治の元老松方正義公が、大分縣日隈公園に松方神社として生祀されてゐることは、自分が曾て世間に發表したことが有るから、茲には繰り返へさないが、更に他の元勳である岩倉具視公の生祠があることは、まだ發表しなかつたから、今此に少しく生祠岩倉神社に就いて左に記載しよう。

明治九年（一八七六）の夏六月二十四日明治天皇東北御巡幸、宮城縣増田町に御小憩、その供奉として、岩倉具視公（文政八年一八二五—明治十六年一八八三）は増田町の莊司辨五郎氏邸に休息した、莊司辨五郎氏則ち同所黄金祠畔の井水を汲んで行在所に献ず、天皇其水の清冽を嘉賞し金若干を賜ひ、岩倉具視公亦三省堂の扁額を書して、莊司辨五郎氏の勞を慰した、此行、莊司辨五郎氏は居常大に岩倉公を徳とし、明治九年（一八七六）十一月二十三日一字の生祠を庭内に創設して、岩倉神社と命名し、岩倉具視公を生祀した、岩倉公時に年五十二、其翌年（一八七七）よりは、東北御巡幸の日を記念し

て、六月二十四日を以て、岩倉神社の例祭日と定め、庭内私社に過ぎざるも、諸人の參拜を許し、神官を迎へて、その祭祀を執行して來た、越えて明治十六年（一八八三）享年五十七歳を以て岩倉具視公薨じ、同二十九年（一八九六）六月莊司氏は令嗣岩倉具定公爵に請うて故公の分靈を得、同年（一八九六）十一月三日の天長節を卜して、莊司氏は岩倉神社に於て分靈遷座式を舉行したのである（以上莊司辨五郎著岩倉神社由緒之記及び昭和三年（一九二八）十月八日、當主莊司益吉氏報告及び宮城縣發行の明治天皇聖蹟志、三一頁）。

本研究に關しては、莊司益吉氏より得たる多大なる便宜を深謝する。

昭和辛未晚春陪加藤博士巡詣甲峽之生祠
途次有作

村松 蘆洲

閑行半日俗情忘
十里一望春色麗

路入郊村野草香
梨花白映菜花黃